

日本世代間交流学会(JSIS)

ニューズレター

日本世代間交流学会
年 1 回 発 行

N o . 2
2 0 1 2 . 8

2012年、第3回全国大会（名古屋）の開催にむけて

日本世代間交流学会 会長 草野 篤子（白梅学園大学）



日本世代間交流学会は2010年6月に創設され、今年で満2年、全国大会は第3回目を迎えます。大会テーマは、「人間の生涯にわたる人格発達と世代間交流」です。昨年の東日本大震災に際しては、多くの学会が全国大会を中止したにもかかわらず、日本世代間交流学会は、第2回全国大会を当初予定していた東京の国立保健医療科学院での開催をあきらめ、急遽、兵庫教育大学での開催にこぎつけました。そして第2回大会では、東日本大震災及び阪神淡路大震災で直接被災された3人の方々をお招きして、シンポジウム「震災地復興と世代間交流」を開催し、地域の日常生活の中で行われている世代間交流の重要性を、再確認しました。

第3回全国大会が開催される中部地区は、世代間交流学会の会員がまだ多くない地域なので、これを機に全国大会に参加され、我々会員との連

携がさらに進むことを期待いたしております。

日本世代間交流学会の目的は、学問の領域を超えて、子どもから高齢者までのあらゆる世代を取り巻く問題に関心や係わりのある研究者、実践者、市民、行政、企業が集い、共に研究・提言をし、実践を通じて諸世代の人権や人格が保障され、人間発達に寄与する総合科学を確立し、よりよい家族や地域社会を実現することです。すべての世代の人権が保障され、心身ともに健全に育つことが出来る家庭や地域を作り出すことは現代社会に課せられたミッションです。

日本世代間交流学会は、象牙の塔にこもった研究者からなる学会とは全く異なり、隣接科学としては、医学、教育学、社会学、社会福祉学、老年学、子ども学など様々な分野の研究者、そして実践者、市民、子どもからなる新しい形の、ユニークで学際的な学会です。

世代間交流学の目的は、多くの地域で行われている世代間交流の先駆的な取り組みに

対して、学術的根拠を探ることにより、その有効性や意義を広く社会に発信することです。さらには、世代間交流という概念を導入することによって、地域や社会における様々な課題の解決を図り、個々人の人間発達、生活の質の向上、コミュニティの再生、そしてすべての世代が共に協力して共存・協働できる社会を実現することです。

まだ、誕生まもない学会なので、様々な点で発展途上ではありますが、本年2月に出版された『日本世代間交流学会誌』第2号をご覧いただいても分かるように、アメリカ、ハワイ、バングラデシュなどからの投稿があり、グローバル化が進む中で、国内はもちろん、国際的にも、学会の存在や学会誌の重要性が、認められてきています。日本世代間交流学会が、さらに国際的な地位を確立していくことが肝要です。

国際的には、国際世代間交流協会（ICIP）が1999年10月14日にヴァールス（Vaals）でユネスコの強力な支持を得

て、立ち上げられ、英国、ドイツ、スペインなどのヨーロッパ諸国、米国、アジア、オーストラリアの国々が加入しています。一昨年のシンガポール大会で、わたくしは ICIP の運営委員に任命されました。また、米国では、世代間交流団体であるジェネレーションズ・ユナイテッド (Generations United) が、諸世代の人権擁護の組織として国政にもかなりの影響を与える強力な組織として成長・発展しています。米国では、子育てをする中間世代が、病気、離婚、収監、死亡などで子ども世代の世話ができなくなり、祖父母世代が扶養し、親権を持つという社会現象がみられます。

世代間交流学の根幹にある重要概念は、何よりも「命」、「命の絆」です。今日の社会

でヒト、モノ、カネのうち、後者の2つが世の中を縦横にわたって支配し、人の命が蹂躪され、命の意義が尊重されていません。「命と命の絆」を強めていくことが、まさに世代間交流であり、そのことは正に、モノやカネを中心とした社会システムではなく、ヒトとヒトの結びつきを何よりも大切にする、相互互恵的なつながりのある家庭、地域、社会、国家を作り出すことにつながっていると考えられます。ヒトとヒトとの関係においては、子どもも大人も関係なくお互いを育くみあい、一人一人の命や生き方を尊重して行くこととなります。子どもと高齢者がかかわることにより、子どもは高齢者から学ぶことが沢山あり、高齢者は子どもや若者と親しく話し合い交流すること、そのものを

喜びとするのです。一人一人が育ちあう社会、世話をしているつもりで、育ててもらっているというお互いに育ちあう人間関係が世代間交流といえるのではないのでしょうか。

第3回全国大会では、名古屋芸術大学大学院教授の金田利子先生、三重県桑名市で高齢者と子どもの幼老統合施設「自立共生会」を多年にわたって実践・運営されている多湖光宗先生を中心として、第2部に世代間交流実践交流会が企画されています。このような企画は、今回が初めてですが、世代間交流学における実践部門は大変重要な意味を持っていますので、多くの皆様のお力で、第1部そして第2部共に成功裏に導いてまいりましょう。

日本世代間交流学会第2回全国大会が、無事に終了しました。

日本世代間交流学会第2回全国大会が、2011年10月8日(土)に兵庫県立大学 神戸サテライトキャンパスで開催されました。参加者は、学会員をはじめ、市民会員、学生会員、地域の皆様などで会場がいっぱいになりました。東日本大震災の被災者である宮城県名取市消防団の樋口恵一さん、NPO 法人ホームひなたぼっ

こ:宮城の布田幸子さんをはじめ、シンポジストとして厳しい状況の中、ご参加いただき現場の生々しい状況を伝えていただきました。私たちは、被災地の皆様のために私たちの出来る世代間交流とは何かということを改めて考えさせられました。参加者の皆様、そして大会の実行委員会の皆様には第2回

全国大会開催にあたり多大なご尽力を頂き心より御礼申し上げます。また、文部科学省、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、芦屋市教育委員会より後援をはじめとして多くの企業様から協賛を頂きました。記して感謝の意を表します。主な内容は以下の通りです。

日本世代間交流学会第2回全国大会 報告

日時：2011年10月8日（土）9：30～16：15

場所：兵庫教育大学 神戸サテライトキャンパス

大会テーマ：日本における世代間交流の新展開

主催：日本世代間交流学会

後援：文部科学省 兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会 日本世代間交流協会 兵庫教育大学

日程

- 9：30 受付開始
- 10：00 全体会・挨拶
- 10：15 口頭発表1
- 12：00 （総会）
- 13：00 口頭発表2
- 15：00 シンポジウム
- 16：15 終了
- 16：30 （理事会）



挨拶

2011年3月11日に日本を襲った東日本大震災の犠牲者の皆様に、心からお悔やみ申し上げますとともに、そのご遺族、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

東北地方をはじめとした東日本には、「ます（升）」と「ゆい（結）」が、現在でも家族と地域に残っている。「ます（升）」は、人間が暮らしていくのに必要な生活単位の大きさを示し、「ゆい（結）」は、地域住民が互恵的に助け合う伝統的なつながりを意味する。津波や地震、原発被害に襲われた三陸海岸地域は、もともと三世代家族が多い地域であり、家族・親族・近隣の日常的なつながりが非常に強い。（中略）

日本世代間交流学会は、日本が突きつけられている少子・高齢化によって加速されている人

と人とのつながりの希薄化、独り暮らし化などを世代間交流で解決することを目的としている。今大会のシンポジウムでは、東日本大震災、阪神・淡路大震災で直接被災された方々から、被災地復興と世代間交流について、生の経験や叡智を学び、被災地の復興を推進するために、今、何をしなければならないかを、ともに考えていきたい。また、本大会を通して今後日本における新たな「ます」と「ゆい」の形成を模索してみたい。

最後になりましたが、本大会関係各位の尽力に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い致します。

（会長：草野篤子）

口頭発表 1 (10:15~12:00)

座長：内田勇人、藤原佳典

- 1 祖父母のライフヒストリーと学生の学び
井上恵子（白梅学園大学研究員）草野篤子（白梅学園大学）
- 2 地域での世代間交流をめぐる大学の動向と課題 — 「遊びと学びのコラボレーションによる地域交流活性化システムづくり」
を通して見えるもの —
草野篤子（白梅学園大学）井上恵子（白梅学園大学研究員）
- 3 保育者養成課程におけるクロス・トレーニングの試み I — 幼老統合ケア施設における実習計画と参加学生の事前調査 —
吉津晶子（熊本学園大学）溝邊和成（兵庫教育大学）
- 4 児童センターにおける世代間交流活動の意義と特性
赤井美智子（十文字学園女子大学）
- 5 様々な DS と保育の連携による多様な小規模多機能共生ケア
伊藤和彦（社会福祉法人自立共生会くわなの宿 医療法人創健会ウェルネス医療クリニック）
- 6 障がいのある子を持つ母親を支えるネットワーク — 家族・親族・友人 —
佐々木剛（白梅学園大学大学院生）草野篤子（白梅学園大学）

口頭発表 2 (13:00~14:50)

金田利子、福島富士子

- 7 世代間交流の長期的効果の検討 — 小学生時の高齢者読み聞かせボランティア“りぷりんと”との世代間交流が中学入学後に及ぼす影響 —
村山陽（東京都健康長寿医療センター研究所、慶応義塾大学大学院）、藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）、安永正史（東京都健康長寿医療センター研究所）、竹内瑠美（東京都健康長寿医療センター研究所）、野中久美子（東京都健康長寿医療センター研究所）、西真理子（東京都健康長寿医療センター研究所）、大場宏美（東京都健康長寿医療センター研究所）
- 8 児童のストレスに与える高齢者ボランティアによる児童へのソーシャルサポートの影響
安永正史（東京都健康長寿医療センター研究所）、村山陽（東京都健康長寿医療センター研究所）、竹内瑠美（東京都健康長寿医療センター研究所）、藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）、大場宏美（東京都健康長寿医療センター研究所）、野中久美子（東京都健康長寿医療センター研究所）、草野篤子（白梅学園大学）
- 9 高齢者における — 「若い人に話しかけること」の意義 —
藤原佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）、小林江里香（東京都健康長寿医療センター研究所）、深谷太郎（東京都健康長寿医療センター研究所）、西真理子（東京都健康長寿医療センター研究所）、斎藤雅茂（日本福祉大学地域ケア研究推進センター）福島富士子（国立保健医療科学院公衆衛生看護部）
- 10 社会的入院者の世代間交流について
佐々木正和（あいち福祉医療専門学院）

1 1 都市郊外に暮らす独居高齢者の社会的交流意欲の形成に関する研究① — 世代間交流からの可能性の探究—

主藤久枝（白梅学園大学）、金田利子（名古屋芸術大学）、草野篤子（白梅学園大学）

1 2 3.1 1 震災をめぐる海外と日本の被災校との国際交流プロジェクト

奈良勝行（白梅学園大学）

シンポジウム（15：00～16：15）

テーマ：震災地復興と世代間交流

司 会：栗山昭子（芦屋大学）

シンポジスト：

神田英幸（兵庫教育文化研究所）

布田幸子（NPO 法人ホームひなたぼっこ：宮城）

樋口恵一（宮城県名取市消防団）

日本では、地震による災害は、いつどのような形で我々に襲いかかってくるか分からない。だから、それに対する対策と復興としての叡智を伝承していく必要がある。そこにも世代間交流の大きな意義が見出される。

阪神・淡路大震災を自ら体験した栗山先生の下司のもと、三人のシンポジストを迎えて、復興と世代間交流について、意見交流が図られた。

神田氏は、関西の元小学校教員で阪神・淡路大震災を契機に、長年復興担当として取り組まれてきた。その知恵を紹介するとともに今後への対策についての見解を述べた。布田氏は、世代間交流、幼老統合ケア施設を運営している宮城県岩沼市のホーム「ひなたぼっこ」の代表である。東日本大震災に対する取り組みについて写真等を示しながら、具体的事例を紹介した。樋口氏は、自身も大変な被害を受け被災された宮城県名取市消防団団長である。消防団の団長としての取り組みを映像など交えながら熱く語るとともに、決意を込めたメッセージを伝えた。

シンポジウムの予定時間が少し超過したが、誰一人、途中退席する者はなく、参加者一同、最後まで熱心に参加する姿が見られた。



シンポジウムにおける司会者とシンポジスト
（右端から栗山、神田、布田、樋口：敬称略）

あとがき

本年度は、開催地を変更し、規模縮小とした全国大会でありましたが、関係各位のご支援・ご協力のもと盛會に終えることができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、今回のテーマのように、震災復興とともに日本の世代間交流も新たな展開が求められ始めています。大きな課題ですが、本大会で、その解決の糸口が見つかればと考え、取り組んでまいりました。皆様方に少しでも貢献できれば、幸いです。

最後になりましたが、会員皆でつないだ震災復興への思いが、震災を受けた方々への支援に結ばれることを祈っております。

第2回全国大会 会長 溝邊和成

日本世代間交流学会第2回全国大会を終えて

第2回大会会長：溝邊 和成（兵庫教育大学）

2011年3月11日の東日本大震災を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

10月8日、日本世代間交流学会は、兵庫の地で全国大会を開催致しました。今大会のシンポジウムは、東日本大震災、阪神・淡路大震災で被災された方々から、被災地復興と世代間交流について、直接学ぶ機会になりました。

阪神・淡路大震災体験を持つ栗山昭子（芦屋大学）先生によって、シンポジウムは進められました。神田英幸（関西の元小学校教員）様から、阪神・淡路大震災を契機に、長年復興担当として取り組まれた知恵を紹介いただきました。布田幸子（宮城県岩沼市の幼老統合ケア施設運営者）様から、東日本大震災に対する取り組みの写真を通して、熱い思いを伝えていただきました。また自身も被災した樋口恵一様（宮城県名取市消防団の団長）より、映像とともに消防団団長としての願い・決意を受け取りました。

これら全ては世代を超えて継ぐべき叡智となりました。

研究・実践発表は、ヴィヴィットな内容がなりました。

- 1 祖父母のライフヒストリーと学生の学び
- 2 地域での世代間交流をめぐる大学の動向と課題：遊びと学びのコラボレーションによる地域交流活性化システムづくりを通して見えるもの
- 3 保育者養成課程におけるクロス・トレーニングの試みⅠ：幼老統合ケア施設における実習計画と参加学生の事前調査

4 児童センターにおける世代間交流活動の意義と特性

5 様々なDSと保育の連携による多様な小規模多機能共生ケア

6 障がいのある子を持つ母親を支えるネットワーク：家族・親族・友人

7 世代間交流の長期的効果の検討：小学生時の高齢者読み聞かせボランティア“りぷりん”との世代間交流が中学入学後に及ぼす影響

8 児童のストレスに与える高齢者ボランティアによる児童へのソーシャルサポートの影響

9 高齢者における「若い人に話しかけること」の意義

10 社会的入院者の世代間交流について

11 都市郊外に暮らす独居高齢者の社会的交流意欲の形成に関する研究①：世代間交流からの可能性の探究

12 3.11震災をめぐる海外と日本の被災校との国際交流プロジェクト

これらは、今後の研究成果にも期待が寄せられました。

以上のように、皆様のご支援・ご協力により盛會に終えることができました。担当者一同を代表し、心よりお礼申し上げます。これからも世代間交流という絆が結ばれ、人々の心の重なりが、未来社会への試金石となることを切に願っています。

日本世代間交流学会 第3回全国大会

「世代間交流と生涯にわたる人格発達」

2012年(平成24年)10月6日(土)に名古屋芸術大学で開催されます。

日本世代間交流学会第3回全国大会が、2012年(平成24年)10月6日(土)に名古屋芸術大学東キャンパス(大会長:名古屋芸術大学・金田利子教授)において開催されます。ふるってご参加ください。皆様のご参集を心よりお待ちしております。大会の詳細につきましては、本学会ホームページに随時掲載していく予定です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日時：2012年(平成24年)10月6日(土)、9:30~17:00(受付開始9:00)

場所：名古屋芸術大学 東キャンパス 〒481-8503 北名古屋市熊之庄古井281

名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科金田利子研究室内

TEL：0568-24-0315 e-mail：kaneda@nua.ac.jp

学会入会のご案内

役員の種類と入会手続き

【会員の種別】

- | | |
|----------|--|
| 1. 正会員 | 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する者。役員選挙権・被選挙権をもつ。 |
| 2. 学生会員 | 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する大学生・大学院生。役員選挙権・被選挙権をもつ。 |
| 3. 市民会員 | 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する市民。役員選挙権・被選挙権をもたない。 |
| 4. 子ども会員 | 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する子ども(18歳以下)。役員選挙権・被選挙権をもたない。 |
| 5. 賛助会員 | 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業を積極的に支援する個人または団体。役員選挙権・被選挙権をもたない。 |

会員種別	年会費	入会金	合計金額	役員選挙権 被選挙権	学会誌送付等		
					学会誌・論文集	ニューズレター	メールマガジン
正会員	6,000円	1,000円	7,000円	○	○	○	○
学生会員	4,000円	1,000円	5,000円	○	○	○	○
市民会員	1,000円	1,000円	2,000円	×	×	○	○
子ども会員	無料	300円	300円	×	×	○	○
賛助会員	10,000円	無料	10,000円	×	○	○	○

【入会手続き】

1. 入会申込書を事務局までファックスしていただき、下記振込先に入会金及び年会費を振り込んでください。申込受付確認後、事務局より連絡申し上げます。

2. 名前(フリガナ)

会員の種別 (正会員 学生会員 市民会員 子ども会員 賛助会員)

自宅の住所・電話番号・FAX番号・e-mail

所属先名

所属先の住所・電話番号・FAX番号・e-mailをご記入の上、FAXにてお申込みください。入会申込書は、下記URLから取得することができます。

(<http://www.jsis.jp/admission.html>)

送り先：兵庫教育大学大学院 溝邊研究室

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1 電話/FAX 0795-44-2197

3. 申込後、事務局からの確認連絡がない場合、ご一報ください。
4. 日本世代間交流協会会員は、年会費2,000円、入会金1,000円とします。

振込先(株)ゆうちょ銀行 記号:14340 番号:93545151

名称 ニホンセダイカンコウリュウガツカイ ※他の金融機関からの振込受取口座として利用される際は、次の内容をご指定ください。店名:四三八 店番:438 預金種類:普通預金 口座番号:9354515